

いにしえ

古の美術品

蓆目圧痕土器

(むしろめあつこん)

縄文時代
(約2500年前)



鹿屋市・榎木原遺跡

(随時掲載)

表面に付いた畳のような模様は、土器を作る際に利用した蓆（むしろ）の痕が残ったものです。当時から蓆を編んでいたんですね。蓆そのものは腐ってしまって発掘できませんが、これが証拠です。口径34㌘。（県立埋蔵文化財センター）